



向山古墳群公園

株式会社オオバ 小林高浩・木村晃一・松岡史展・小柳太二

向山古墳群は三島市の南西部、箱根外輪山の中腹に位置している。伊豆地域で初めて確認された前方後円墳を含み駿河・伊豆地域の歴史を解明する上で重要な古墳群であるとして、平成11年3月静岡県史跡に指定されている。本作品は古墳群を中心とする約1.8haについて基本計画の見直しと測量・実施設計を行ったものである。

□委員会の意見とコンサルタントの提案

計画の見直しにあたり「向山古墳群環境整備検討委員会」が設置された。同委員会は考古学・文化財保護の専門家を委員とし、県の文化財保護課や三島市役所の行政職員がオブザーバーに加わり、保全対策と展示・学習手法について専門の見地からの幅広い指摘があった。

コンサルタントからは古墳群の覆土保存の工法案を示すと共に、見学者が古墳見学順路を選択できるように複数の園路を巡らせること、古墳毎にポケットス

ペース（解説板・ベンチ）を分散配置することで古墳の輪郭を際立たせて地域の歴史を表す造形物とすることを提案した。

□コンサルタントの果たした役割

見直しはゾーン設定の再編に及んだ。各古墳の保存状況を確認した上で、計画地内の園路動線だけでなく既存市道の歩道（通学路指定）も活用して園内3つの地区のネットワーク化を図った。また、文化財包蔵地では大規模な基礎工事ができないことから便益施設（トイレ、四阿等）の導入のために隣接民有地の組み入れを提案した。協議の結果この提案が受け入れられ、計画地を拡大することで利用拠点整備が実現し利便性が向上した。委員会では事務局の一員としてコンサルタントが説明を行い、委員と意見を交わしながら整備の方向性を固めていった。



開園記念式典(14号墳上) 見晴台からは三島市の市街地と富士山の大展望が得られる



整備前(C地区) 以前は畑や樹林が広がっていた。発掘調査でA、C地区は樹木が取り払われた



園路と周溝(C地区) 周溝は古墳周りに掘られた溝のこと。消失した古墳は周溝で位置を明示した



整備後(C地区) 古墳は覆土して保存、盛土の上に園地を整備した。トイレ、四阿は文化財包蔵地の指定区域外に新たに用地を確保して設置した



エントランス(C地区) 比較的平坦なC地区に便益施設を集めて配置し、利用しやすいガイダンス広場とした

作品概要

作品名：向山古墳群公園
 所在地：静岡県三島市谷田688番33ほか
 発注：三島市役所教育委員会文化振興課
 設計：株式会社オオバ
 監理：三島市役所建設部水と緑の課
 設計期間：2010年8月～2012年3月（2カ年）
 施工期間：2012年度
 規模：約1.8ha（特殊公園）
 主要施設：保全対象古墳14基（静岡県指定史跡）、ガイダンス広場、多目的広場、散策園路、復元展示（主体部、周溝など）、解説サイン、休憩所、トイレ

作品評

この作品は、静岡県史跡に指定された古墳群について、その保全とともに古墳群について学びながらゆったりと時を過ごせる史跡公園として整備したものである。敷地中央を横切る市道整備とともに、考古学や文化財保護の専門家と地元県や市を交えた委員会を運営し、設計案をまとめ上げた。開園記念式典の様子や、整備に際して地元小学生による芝生植付けへの協働など、地元の良好な評価の状況が伝わってくる。
 設計内容は、古墳の覆土保全を中心に、散策園路と休憩施設、サインといった標準的なものだが、全体に抑えたデザインが墳丘の緑を引き立てている。また、トイレ等の基礎構造物を有する施設を設置するため、文化財包蔵地を避けた敷地の取得を提案するなど、コンサルタントとしての技術発揮について、高く評価された。

□ 作品の特色

計画地西端の14号墳の上からは、北に富士山と裾野を望み、東から南に箱根・伊豆の山々、西に駿河湾や三島市街が広がり展望に優れることから見晴台とした。また敷地が細長く、中央を貫く市道の両側に古墳が分布することから市道の歩道を含めて周遊ルートを設定した。全体の整備方針は以下の通り。

- ① 楽しく散策し、ゆったりと滞在できる空間の工夫
 - ・古墳を巡りながら快適に散策できるバリアフリー園路
 - ・学習・交流・休憩の場（ガイダンス広場、休憩所、便所）
 - ・円墳と園路が調和する円を基調としたデザイン
- ② 古墳群の保全、学べる展示の工夫
 - ・盛土と張芝による古墳の保護

- ・歴史遺構の再現展示（主体部、周溝、消失古墳）
- ・案内サイン、解説サインの系統的な配置

□ 郷土の歴史に想いをはせる憩いの場所として

2013年4月の開園記念式典は、市長をはじめ地元関係者が出席して盛大に行われた。現在では散策利用者、歴史愛好家、地元小学校の授業などの幅広い利用があり、小学生からは「身近に色々な形の古墳があることが分かり歴史に興味をわいてきた」「本物の古墳を初めて見学して大きさや形を理解できた」等の意見が寄せられている。また一般の方からも実物大の陶板による主体部の展示や張芝による古墳の保護と快適な空間の創出に高い評価を得ている。古墳公園として整備したことにより教育的な成果が上がると同時に、市民の憩いの場としての活用が実現し、古墳の保全・活用の好例となっている。



地元小学生による芝苗植付け



整備前(A地区) 起伏が大きく道路側が崖となっていた



主体部 棺は実物大の写真陶板で表示



完成予想パース 上から順にA, B, C地区。全長450 mに13の古墳が分布する



整備後(A地区) 古墳の一部が市道で削られていた為、市道側は擁壁とフェンスで仕切って古墳の姿を最大限に見せる工夫をした。急峻な地形だったが8%以内の勾配に抑えて周遊園路を配置した



整備後(B地区) 張芝せず発掘時の状況を見せる



計画イメージ(上)と完成後(下) ほぼ提案に近い姿で仕上がった



前方後円墳(A地区) 最奥の高い段の円形と一段下がった方形の墳丘の姿が分かる